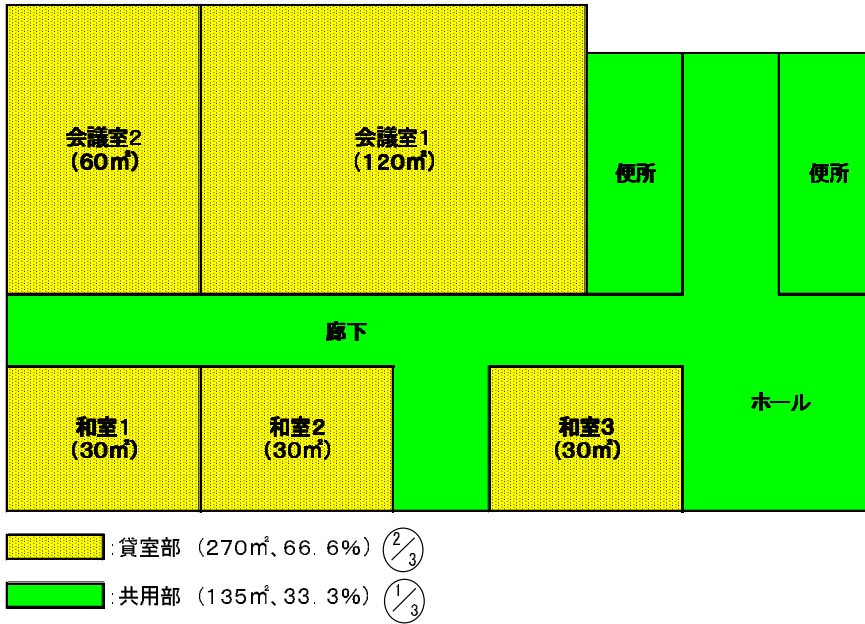


使用料(貸室)の算定方法

【例】



○コストの考え方

(円)

	現行	算定結果
人件費	1,000,000	1,000,000
物件費 (光熱水費、維持補修費、委託料など)	5,000,000	5,000,000
建設費 (再構築価格÷耐用年数)	3,000,000	4,000,000
計	9,000,000	10,000,000

※総コストで原価計算をしたうえで、施設の性質による受益者負担と公費(税金)負担の割合で使用料を算出する。

※再構築価格を建築(75%)対設備(25%)に按分し、設備の耐用年数を15年として計算する。

○使用料の計算方法

※原価計算

区分	コスト (円)	面積 (貸+共) (㎡)	開館日数 (日)	①/②/③ (円)	貸出基礎面積 (㎡)		原価 (円)	受益者 負担率	算定原価 (円)	現行 使用料	
					貸室 (⑤)	共用按分 (⑥)					
	①	②	③	④			④*(⑤+⑥) ⑦	⑧	⑦*⑧		
全部貸切	現行	9,000,000	405	310	71.7	270	135	29,039	50%	14,519	13,000
	見直	10,000,000	405	310	79.6	270	135	32,238	50%	16,119	

※改定案

・「現行」の現行使用料と「見直」の算定原価の乖離幅を計算

$$16,119\text{円(算定原価)} \div 13,000\text{円(現行使用料)} - 1 = 24.0\%$$

乖離幅が20%~30%なので、改定率10%とする。

$$13,000\text{円} \times 1.1 = 14,300\text{円}$$